

SCP 最終活動報告書

団体名：「竹野3Cプロジェクト (charm connect challenge)

～魅力につなげてチャレンジする～

アドバイザー：竹川先生

メンバー：下家佳奈 福島沙季 吉野敬悟 郭瑠儀

◎目次

1. 活動目的
2. これまでの主な活動
3. 「親子で竹野自然体験ツアー（夏）！」
4. 「市場まつり」でのブース参加
5. 「親子で竹野自然体験ツアー（冬）！」
6. 最終的な成果・感想
7. 今後について
8. 最後に

1. 活動目的

- ・兵庫県豊岡市の竹野南地域の魅力である自然の豊かさや、特産品、人の温かさを、参加者に触れてもらい、地域愛着を深めることを目的として、活動する。
- ・国連が定めるSDGsの17の目標のうち、「3すべての人に健康と福祉を」「4質の高い教育をみんなに」「11住み続けられるまちづくりを」「12つくる責任つかう責任」「15緑の豊かさを守ろう」「16平和と公正をすべてのひとに」の6つの目標の達成に貢献する。

2. これまでの主な活動

- ・8月6日（土）に「親子で竹野自然体験ツアー！（夏）」の実施
- ・竹野南地区で10月30日（日）に開かれた「市場まつり」でのブース参加
- ・2月18日（土）に「親子で竹野自然体験ツアー！（冬）」の実施

3. 「親子で竹野自然体験ツアー！（夏）」

○実施の詳細

- ・日時：8月6日（土）
- ・場所：竹野南コミュニティセンター
- ・参加者：14名（内訳：子供10名、大人4名）

《ご協力いただいた方》

- ・地域マネジャー 鶴原様
- ・豊岡市地域おこし協力隊 武藤様
- ・NEXT GREEN 但馬 上村様・竹平様
- ・地域ボランティアの方々



（上図）そば打ち体験の様子

〈午前：そば打ち体験（そば打ち講師1名）〉

そば打ち講師の方の指導の下、子供たちを中心にそば打ち体験を行った。力作業など、大人たちのサポートもあり、スタッフを含めて、全員が楽しくそば打ちを体験することができた。

〈午後：川遊び〉

深いところが数か所あり、補助が必要な時もあったが、危ないこともなく、無事に終えることができた。子供が終始楽しそうにしていたので良かった。



（上図）川遊びの様子

- ・ヒアリング調査（対象：大人4名）

今回、イベント終了後に保護者4名を対象にヒアリング調査を行った。結果（一部抜粋）は以下の通りである。

（設問1）イベントを通しての感想

- ・ そば打ち、川遊びを通して、竹野の食や自然に触れ合うことができて良かった。
- ・ プールなどではなく、川で遊び、自然を体験することができて良かった。

（設問3）次回イベントをやるとすれば、どのようなことをしたい、してほしいか

- ・ 今回のそば打ちのように、作って食べるイベント。
- ・ 竹や木を使った工作、自然探検、農業体験や山・森のことを知るイベントなど、自然の中で遊ぶイベント。

（設問4）イベントについて、改善してほしいこと

- ・ 参加者同士で、協同で行うミニゲームなどを通して、参加者間の交流を深めること。
- ・ 子どもが発言する場や全員の自己紹介などの場を確保すること。
- ・ オリエンテーションなどでゲームを行うこと。

○まとめ

少子化が進んでいる竹野地域で、子供たちが地域の魅力である自然に触れながら楽しめるイベントを開催したいという目的で、イベントを開催した。参加者の方から、「普段は

できないことを体験でき、楽しかった」という感想や、「自然に触れるだけでなく、参加者同士でもっと交流を深められたらいい」など、貴重な意見もいただくことができた。また、このイベントに協力していただいた、地域マネジャーの鶴原様や、「NEXT GREEN 但馬」の上村様や竹平様からも、安全に楽しくイベントを終えることができよかったという意見をいただき、当初の目的を果たせたことはよかった。一方、反省点として、事前の打ち合わせが不十分であったところがあり、鶴原様からもご指摘をいただいた。打ち合わせが不十分であったために、当日の進行がスムーズとは言えず、参加者や、スタッフに迷惑をかけてしまった。そのため今後は、スタッフとの十分な打ち合わせを行い、参加者をより一層楽しませられるように努めていきたい。このイベントを通じて、打ち合わせの重要さと、人を動かすことの大変さを実感する貴重な体験であった。

4. 「市場まつり」でのブース参加

○実施の詳細

- ・日時：10月30日（土） 10：00～15：00
- ・場所：JA たじま森本支店、交流広場わいわいみ・な・み

〈みそスイーツコンテスト〉

竹野南の特産品である三原味噌を使ったスイーツを、鳥取大学生と喫茶よつばの2チームで作って提供し、コンテスト形式で来訪者に試食してもらった。「おいしい」といった感想をもらえたり、学生と地域の人でコミュニケーションができていたりした。

〈Tからの挑戦状〉

竹野地区に関するクイズや、三原味噌を使った「みそまるづくり」などを用意した。本企画を通して、イベントに参加しつつも竹野地区や豊岡市について知る機会にすることができた。



(上図) 喫茶よつばの様子



(上図) Tからの挑戦状の参加

○活動を通しての感想

みそスイーツコンテスト、T からの挑戦状のどちらも大きなトラブルなく開催でき、終了することができた。

みそスイーツコンテストでは、学生がみそスイーツを通して、喫茶よつばに訪れた地域の人とコミュニケーションをとることができていた。また、T からの挑戦状では、学生が竹野地区に関するクイズを自ら作ったことで、学生自身が竹野地区に関して知る機会にもなった。

しかし、みそスイーツコンテストは、スイーツの提供がメインになってしまい、利用者との交流が十分ではなかった場面もあった。また、当日の学生側の動きや必要物品の確認などについて、事前のシミュレーションが不十分であった。また、T からの挑戦状においては、役割の共有不足やクイズの難易度の調整・集客の不十分さが挙げられた。また、どちらも参加者への感想の聞き取りが不十分であったことも挙げられる。

事前のシミュレーション不足が全体の課題として挙げられており、今後の活動においてこの課題を改善できるように努めていく。



(上図)市場まつりの様子



(上図)Tからの挑戦状の受付の様子

5. 「親子で竹野自然体験ツアー（冬）！」

○実施の詳細

- ・日時：8月6日（土）
- ・場所：竹野南コミュニティセンター
- ・参加者：8名（内訳：子供5人、保護者3人）

《ご協力いただいた方》

- ・地域マネジャー 鶴原様
- ・豊岡市地域おこし協力隊 武藤様
- ・NEXT GREEN 但馬 上村様・竹平様
- ・地域ボランティアの方々

《オリエンテーション》

参加者・スタッフ全員にネームプレートを渡し、自分の呼んでほしい名前をそれぞれ記入し、それを使って自己紹介を行い、交流した。



(上図)昼食の様子

《昼食づくり》

竹野南地位の特産品である三原みそを使って、竹野地域の小学生やその保護者、地域ボランティアの方と一緒に、昼食づくりを行った。メニューは、ご飯と三原みそを使ったハンバーグ、味噌汁をつくった。子供の包丁さばきなど心配な面も多かったが、無事に楽しく調理することができた。

(右図)ハンバーグづくり



《クラフト体験》

「NEXT GREEN 但馬」の上村様、竹平様に主導していただき、クラフト体験を行った。子供によって、作るもの・方法など多種多様であったが、みんなが集中し、思い思いの作品を作り上げていた。



(上図)クラフト体験の様子

《たいやきづくり》

たい焼き専用の調理器具をお借りし、子供たちを中心に調理を行った。たい焼きを食べることだけではなく、調理自体も楽しそうにしていた。

(右図)たいやきづくりの様子



○地域の方からのコメント（要約）

子供たちが楽しそうにしていたことや、イベント後に子供たちから自発的に感想が述べられていたことが良かった。定員よりも参加人数は少なかったが、結果的には、ちょうどよかったため、人数が多かった時の対応は注意が必要であった。また、持ち物の周知やハンバーグを作る個数や食器の数の説明など、全体的なリーダーを1人配置し、作業せずに状況を見ながらずっと指示を出しても良かったのではないかと感じた。普段の生活ではできないことを体験できてとても良かったが、本来の目的である魅力のアピールが弱かったことがもったいなかった。

○活動を通しての感想

子供たちが楽しそうにしていたことが何よりも嬉しかった。進行の面では、前回のイベントに比べれば良くなっていたのではないかと思う。しかし、魅力のアピールが弱かったことや、調理の際の具体的な説明が足りていなかったことが課題として残った。地域の方と参加者との交流に遠慮してしまった部分があり、そこで学生と参加者との会話が少なくなってしまうことや、魅力のアピールを積極的にできなかったことにつながってしまった。

た要因であると思うので、次の活動では、学生だからと遠慮せず、積極的にアプローチをかけていきたい。課題は多く残ったが、参加者もスタッフも無事に楽しく終わられてよかった。

6. 最終的な成果・感想

○下家佳奈

私はこの1年間を通して、様々な学びと反省がありました。授業に関わる前まで全く知らなかった地域で、大学生主催のイベントを1年で3度もやらせて頂いて、大変貴重な経験になりました。特に、秋に行った市場まつりでは地域の方をはじめ、先生や1年生とたくさんの方に関わって頂き、「イベントを創る」という難しさを、身を持って感じました。各イベントにおいて、成果や反省がたくさんありました。来年度以降どのような形になるかは分かりませんが、この経験を活かして今後につなげていきたいです。

○福島沙季

一年間の活動を通して、参加者の方から楽しかったといったようなポジティブな感想をいただくことができたことや、イベントの中で地域の人との交流をすることができたことなどが、良かった点だと考える。また、責任感を持つことや経験を積むことを、このプロジェクトを通してできたと感じ、それが自分の力になったのではないかと考えられるようになったことも良かった点だと感じた。ただ、事前のシミュレーション不足や調整不足などによって、当日の進行の段取りがよくなかったところがあり、参加者や協力してくれる人たちに迷惑をかけてしまった部分があったと感じた点は、改善点だと考える。良かった点については引き続き活かしていき、改善点だと感じた点については改めて活動を振り返り、改善できるように努めていきたいと考える。

○吉野敬悟

これまでの活動を通して、イベントを開催する大変さや、多くの人の支えがあってこそイベントを成功させることができるのだと実感した。イベントを開催する側として、責任の重大さを痛感するとともに、予算の編成やチラシの作成、スタッフの打ち合わせ等を時間に余裕をもって行う重要性を学ぶことができた。また、イベントを開催して、参加者の方から「楽しかった」というご感想をいただけたことや、参加者・スタッフ含めて、無事にイベントを終えられたことはよかった。イベントを通して、笑顔で楽しそうにしている子供たちの姿を見て、大変だったが、イベントを開催してよかったなと思うことができた。しかし、課題も多く残った。イベントを開催するにあたって、打ち合わせ不足やシミュレーション不足が目立っていた。現地までの距離があるなど、シミュレーションをする機会が設けられなかったこともあるが、学生側だけでも実際に動きとしてシミュレーショ

ンすることや、現地の人とオンライン会議を通じて入念に話し合うや準備をすることが課題として残った。加えて、竹野南地域の魅力をどのようにすれば子供たちにしっかりと伝えられるのかという、魅力のアピールという点が難しかった。子供たちの目線に立って、さりげない会話の中で、魅力についての話ができればさらに良いイベントになっていたのではないかと感じ、反省点である。イベントを主催する側でありながら、進行などをあまり上手くできなかつた中で、鶴原様や武藤様、上村様、竹平様、そして地域の方に本当に助けられた。この1年間の活動を通して得られた学びや課題についてしっかりと受け止め、今後活かしていきたい。

○郭瑠儀

【成果】

1. 地域住民との交流が増加：地域住民との交流イベントを開催し、多くの人に参加してくれた。地域の方々からは、新しい出会いや交流の機会が増えたことに感じた。
2. 地域の魅力をPRするプロモーション：活動をしながら地元の名産品をPRするスイーツや料理を共に作る、地域外からの注目を集めることができた。また、地元住民からも「こんなに素晴らしいことあったのか」と再発見する人が増えたという声も聞かれた。

【感想】

1. 地域住民との交流が楽しい：地域住民との交流を深めることで、彼らの暮らしや文化に触れることができ、非常に充実した時間を過ごした。また、彼らからのフィードバックを聞くことで、自分たちの活動の方向性や改善点を知ることができ、より良い活動を展開することができた。
2. 地域の魅力をPRすることは重要：地域の魅力をPRすることで、その地域を訪れる人が増え、地域経済が活性化することが期待できる。また、地元住民自身も自分たちの地域に誇りを持ち、地域の活性化に繋がると感じた。
3. 課題解決に向けた取り組みは意義深い：地域の課題を解決することは、地域住民の生活の質を向上させることにつながる。また、多くの人に地域に知ってもらう機会になることにもつながることを改めて感じた。

7. 今後について

昨年度の基礎ゼミから、今年度のイベント主催の活動を行い、竹野南地域と関わってきた中で、竹野南地域の方との温かな交流に大きく助けられ、非常に良い学びをさせていただいた。今後の活動については、現メンバーはこれから就職活動など、自身の将来を見据えて動かなければいけなくなり、今回のようなイベントの主催は難しくなることが予想されるため、現メンバーでのSCPとしての活動の継続は考えていないが、これからもボラン

ティアなどの形で、竹野南地域の活動に参加させていただきたいと考えている。

8. 最後に

今年度の活動を通して、アドバイザーとして私たちの活動を支えてくださった竹川先生、イベントの開催にあたって竹野南コミュニティセンターの場所の提供など、快くご協力してくださった鶴原様や竹野南地域の皆様、子供たちとの触れ合いをサポートしてくださった武藤様や「NEXT GREEN 但馬」の上村様、竹平様、そして、会計処理などの事務作業に尽力してくださった地域学部会計系の皆様にご協力いただきました。最後になりましたが、ここに深く感謝の意を表します。

以上